

市議会最後の一般質問でえんど久子市議に答弁

介護報酬

引き下げは厳しい

介護崩壊をもたらすもの

県議選に立候補を予定している猿渡（えんど）久子市議は、3月17日市議会最後となる一般質問に立ちました。

「日本共産党の市民アンケートに生活が苦しくなった原因として一番多かったのが、介護・医療費の負担だ。提案されている介護保険料3%の値上げに我々は反対だ。介護報酬の引き下げは介護崩壊をもたらす処遇改善に逆行するもので引き下げないよう国に求めるべきと考えるがどうか」と質問。

非常に厳しく残念と答弁

「慢性的な人手不足にあり離職率の高い介護現場の実態を感じている担当課としては非常に厳しい結果であり、介護職場改善の観点からも残念。熱意をもって地道に地域ケアに取り組んでいる事業所やNPO法人等と協働をすすめる担当課としては、歓迎すべきものではない。昨年開設した特別養護老人ホームで介護職員の確保が困難なために入所がすめられず、定員に達したのは半年後だった。県を通じて国にも、現場の実態は申し上げて行きたい」と、高齢者福祉課長が答弁。



介護職場の改善のために

さらに、えんど市議は「人材確保には介護職場の待遇改善が必要。まず実態調査をすべし」と求めました。

課長は「介護報酬の引き下げにより減収になる経営者が、処遇改善加算により更に賃金の引き上げを行えば、余裕のあった人員配置を見直すなど、職場環境を悪化させるのではないかと、非常に危惧している。可能なかぎり情報収集し、情報が不十分である場合、あらためて調査を実施するかどうかを検討していきたい」と答えました。

別府市議会HPで本会議の録画をご覧ください。日本共産党別府市議団やえんど久子のHPもご覧ください。

日本共産党 別府市議団
げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
Tel.0977-22-6576

No.634
2015.3.18.

えんど久子市議 県の姿勢を批判

国言いなりではダメ

要支援のサービス丸投げ

要支援1・2の方のデイサービスとホームヘルプを市町村に丸投げし、ボランティアなどでも可能とする問題でも、えんど久子市議は質問。

「全国的には人材確保が困難などの理由で7%の自治体しか来年度市町村に移行しない。大分県は全国一国言いなりで、55%の自治体が来年度

からという。H27年度から100%移行を考えていた別府市に、私は無理があると主張し、27年度は50%、28年度に60%と変更になったものの、なぜそんなに急ぐのか。国言いなりでは市民の暮らしは守れない」と迫りました。



国のやり方はひどい

高齢者福祉課長は「要介護者などの専門家の支援が必要な方には、専門家による十分な支援を行い、比較的軽度な虚弱高齢者の方には、住民主体のサービスの活用により、効率的専門家の配置と併せ早急に支援の担い手をおぎなう人材の確保を行

う必要がある。国は後期高齢者の伸び率を勘案した上限枠を設定する方針を示しているため、すでに高齢化率が高く後期高齢者数の伸びが鈍化する別府市では、少しでも早く実施しないと財源の確保がきびしくなる」と説明。

市は市民を守る防波堤に

えんど市議は「国のやり方に無理がある。ボランティアなどすぐには集まらない。国に向けて地方の実情を訴えていかなければ、介護事業所や利用者・市民にしわ寄せがくる。きょうの答弁のよう

に市民の立場に立った行政を求める」と述べた。

えんど久子市議は厚労省の方針と国言いなりの大分県を批判し、「県と市が一緒に防波堤となつて国の悪政から市民を守らなければならぬ。市民のために働く姿勢を貫くべきだ」と強調しました。